

思いを込めます。

今年一月、岩手子ども環境研究所はNPO法人（特定非営利活動法人）となり、さらに活動の幅を広げています。

「次の世代の子どもたちのために、社会に役立つことを事業化しよう。これが私たちの合い言葉。子どもも大人も、地域の人々も都会の人々も、目で見て、これからのエコロジカルな暮らしを生き生きと感じる『新たな広場』を創り出し、ゆるやかなネットワークを日本中に創り出したい」と吉成さんは夢を語ります。

わずか十四世帯の上外川地区。森と風がっこうは、その地に確かな根を下ろし、これからもたくさんの方の縁を大切にしながら、持続可能な地域づくりを目指します。



●北いわてのスローツアー(秋)
「葛巻町・助け合いの精神が息づく垂柳集落編」郷土料理づくり

人との出会いが 力の源。 自然と森林の恵みを暮らしに生かしたい。



安孫自然塾

外久保篤雄さん

安孫自然塾は、森林の多様性を学び、活用することを目的に平成十六年に開設されました。活動は、毎月第一日曜日、所有している自宅周辺の山林が森林学習の場です。

年間百種類もの豊富な体験メニューの中から二、三種類を組み合わせ、四季折々の山の表情に出合いながら、林業体験や森の恵みを楽しみます。春にはシラカバの樹液を採取して飲んだり、山菜やキノコの収穫を体験、夏はプランター作りや木の皮細工。秋は果実酒を味わい、根ワサビ収穫。冬はソリ作りやチェンソー木工など季節ごとにたくさん

の楽しみ方があります。自然塾代表の外久保篤雄さん(60)は、長年造林の仕事続け、生活のためだけではなく、働きながら楽しめる方法はないものかと思いを巡らしていました。生涯学習の講座でつる細工を指導したことがきっかけとなり、自分が好きで手掛けていたことが自然塾の活動につながりました。昔から果実酒だけで五十種類も作っていました。

自然塾の目標は、①自然や森林の恵みを生かすこと②感動を生み出すこと③感謝の心を込めて作業を行うこと。木の生育を阻害する「つる」



盛岡市大宮中学校の林業体験

は、林業にとって悩みの種。年に十層も伸びるというクズのつるも「仕事で切つて捨てるだけではもったいない」との理由から、つる細工にたどりつきました。自然の未利用資源を暮らしに取り入れることは、山を生かすことでもあります。また、あるものを生かすとの考えから、自分たちが山仕事に使う道具類もできるだけ廃物を利用し、手作りしています。「葛巻にあるものを生かし、自分のできることで町の役に立てたらと考えています。もうけにもならないことをやって、もの好きだと言われますが、これも性分。自分の夢が

形になったのは、家族やスタッフの理解や力、皆さんのおかげと感謝しています。人との出会いがあつて楽しい。これが力の源になっていきます」とにっこり笑います。

特定公益信託いわてNPO基金から三年連続で助成が決定し、自然塾で使うチェンソーやかんじき、木工旋盤など体験のための道具は、着々と整備されています。

自然と森林の恵みを暮らしに生かすことと、手入れ不足の森林を整備して、地球温暖化の防止に貢献することが、自然塾の活動テーマ。子どもたちや大人たちに「自然の恵み」を少しでも知ってほしいと願っています。



(有)小倉商店

小倉廣身さん

小倉廣身さん(51)は、雑穀の研究や商品開発に余念がありません。各地で新しい品種を見つけると、必ず自分の手で栽培し試しています。

翌年、品種の特徴や生育状況などを知らせ、農家に栽培をお願いしています。町内の生産者のほとんどが高齢者で、品質向上や安定生産のための努力は欠かせません。

雑穀類は全部で二十四種。取り扱う種類の多さは、県内一となっています。黒米の栽培も早くから手掛け、葛巻で栽培可能かどうかなどさまざまな情報収集も事欠きません。

小倉商店ブランドの製品は、十年ほど前から販売。昨年十一月から独自のホームページを立ち上げ、インターネットによる販売を拡大させています。消費者の声を商品づくりの参考にしたり、町出身者が他県で商品を取り扱ってくれるなど手ごたえも感じています。

「今後は、ホームページにもっと葛巻の情報を盛り込み、一人でも多くの人に町を知ってもらい、葛巻にあるものを生かし、商品の付加価値を高めた」と、試行錯誤しながら新たな商品づくりに取り組んでいます。

さまざまな出会いや発見などを通じて、人や地域がつながっていきます。町の人口が年々減少する中、地域が持っている多面的な機能や資源を生かした交流は、人と地域に活力を与えてくれます。

町では、エコパーク平庭高原の平成20年度オープンに向けて、体験滞在型の観光客の受け入れ体制を整備し、葛巻らしい魅力ある施設整備を進めています。町の豊かな自然環境や生活、食文化など人をつなぐ体験を中心とした葛巻ならではの観光メニューの提供を関係団体と連携して確立し、町の魅力をPRしながら、交流を進めます。